

展覧会名：追憶の風景 没後一周忌展

会期：平成21年7月5日（日）～10月25日（日）＊会期延長で10月31日まで

概要：昨年85年の生涯を閉じた関口は、その大半を占める画家としての人生を、ほぼ風景画ひとすじに過ごしてきた。彼が遺した作品は、描かれているモチーフのみならず技法や色彩も多種多様で、晩年まで大きな振り幅を保ちながら己の芸術を錬成してきたであろうということが、容易に想像される。

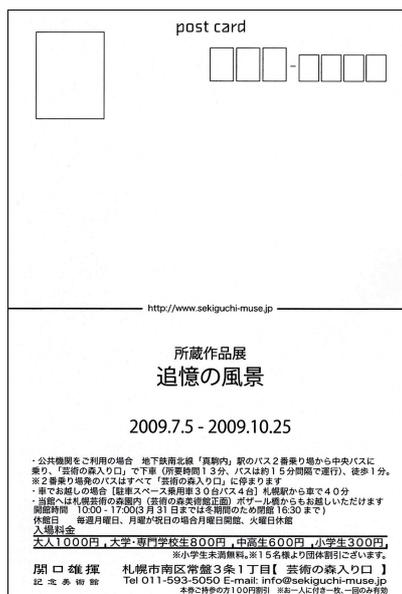
本展ではそうした多様性に着目し、風景画家・関口雄揮の辿ってきた道のを回顧する。大胆な抽象的表現から写実的表現への転換、鮮やかな原色による表現と「モノクローム」による表現との往還。さらにはこうした変化を繰り返すなかで発見された普遍的なテーマや、独自の技法の確立など、50年以上にわたって磨き上げられてきた、広大な関口の芸術世界をご覧いただきたい。

同時開催：関口雄揮スケッチ展 風景画家前夜（第二・第三展示室）

概要：遺品から新たに発見されたスケッチをもとに、関口が風景画家としての立場を確立する以前の様子を紹介する。第二展示室ではフランス留学時代のスケッチを展示。第三展示室では、画家を志しはじめたという小学校時代から、東京美術学校時代までのスケッチを展示。当然荒削りながらも、画学生らしく、迷いつつも描くことの喜びを噛み締めているかのような生気に満ちた作品をご覧いただきたい。



フライヤー表



フライヤー裏